

桐が谷通信

CHUBU GAKUIN UNIVERSITY
CHUBU GAKUIN COLLEGE

第 5 9 号

2 0 1 9 年 6 月 3 0 日

発行 中部学院大学 宗教委員会
中部学院大学短期大学部

〒501-3993
岐阜県関市桐ヶ丘二丁目1番地 TEL (0575) 24-2211

創立記念礼拝「出会いから出会いへ」(マルコ1:16~12)

高木 総平 (岐阜済美学院 宗教総主事)

少し前に用があり奈良に行き、バスに乗っていましたが掲示板的文字が目にとまりました。こうありました。「出会いは偶然、別れは必然」奈良だからきっとどこかのお寺のお坊さんが書いたのだと思い、なかなか考えさせられる言葉だと思いました。ふとその下を見ましたらペット霊園の宣伝だったのです。確かに出会いは偶然としか思えない面がありますし、どんなに大切な人とも、つながりが強い人ともいつかは必ず別れるということでは、見事にいい当てている言葉です。でもその後でちょっと待てよ、と思いました。出会いは偶然なのでしょうか。そういう偶然としか言えない不思議な気持ちを持つことは、謙虚でいいかもしれません。いやむしろ偶然どころか、必然としか思えない、深い意味がある、あるいは後から気づくということがあり、私たち一人一人も、そして本学のような組織も、そのような出会いで成り立っているのではないかと思うのです。5月14日の大学の開学記念日、創立者片桐龍子先生の誕生日でもあり、前日のこのチャペルで、そのような本学のこれまでの歩みにおける出会いのほんの一面に触れてみたいと思います。

聖書にも多くの出会い、特にイエスとの出会いの物語が記されています。まず弟子たちとの出会いです。ただこの段階では深い本当の出会いは起こっていません。真に弟子たちとイエスが出会うのは、イエスが十字架上で地上の生涯を遂げ、復活という出来事を通してからのことです。あまりにも昔のことで実感がないかもしれませんが、この聖書における出会いこそが、本学の原点でもあるのです。

では本学の歩みではいかがでしょうか。創立者の片桐龍子先生の歩みにおいて、書かれているものからだけでも多くの苦難とともに多くの出会いがあっ

たということが分かります。御家族とも深い出会いがあったと言えるのです。特に若くして亡くなられた息子さん、登喜夫先生の妻として、この地に関西より嫁いでこられた孝先生との出会いです。この孝先生に今日は触れたいと思います。もともと三代目のキリスト教徒ということですから、ご家族を通し、幼き時よりイエスと出会っておられたのです。本学が戦後神道の精神からキリスト教の精神に立ったキリスト教学校への大転換をなされるにあたり、この地におきまして宣教師の先生や地域の牧師さん、



『教会カット集』より

教会との出会いを通して、時には大きな困難、苦難にあってもその出会いに支えられて本学の再出発のために尽くされてきたことが分かります。その孝先生の人生、つまるところ本学の歩みに決定的な出会いを与えた方がおられました。子ども時代より

深くイエスと出会った体験と言えるでしょう。ということは今の学生の皆さん、教職員のみなさんにも大きな存在であると言える方です。昨年「桐が谷通信」に少し書いたことです。私は二年前まで奈良の教会で牧師をしていました。そこで〇さんという熱心なメンバーの老婦人と親しくさせていただきました。家にもたびたび訪ねさせていただき、その方のそれまでの人生の歩みを聞くこともよくありました。いつも言われていたのがキリスト教徒になったのは、伯母の影響がとても大きかったということでした。その伯母の方は、奈良女子高等師範学校、今の奈良女子大学の家政学の先生で熱心なキリスト教徒で、学生さんに聖書やキリスト教のことを熱い思いで伝えていた、〇さんはその学生さん、お姉さんたちを見て育ったといつも言われていました。その伯母さんはついには教会を建てるようにもなったと言われ、その古い教会の建物が〇さんの家の

そばに残っていました。その伯母さんのことはとても印象に残っていましたが、過去の方としてそのような立派な方がいたのだなという認識でした。

そしてこの大学に私は赴任してきて、ざっとは目を通していたのですが、少し慣れたころ、『知識のはじめ - 私たちの岐阜済美学校 - 』などにもっと本学を知ろうと丁寧に目を通していきますと、こういう文が目にとまりました。「孝先生は奈良女高師時代、寮生活を続けられ、キリスト者であった家政科長の越智キヨ先生の指導を受けて、有志と共に聖書研究会を開かれました。場所は近くの奈良育英高校でした。」この越智先生との出会いから決定的な影響を受けたのです。あれこれは〇さんの伯母さんのことではないか、と直感しすぐ電話を掛けました。「〇さん、旧姓は越智さんでしたよね。」それに対して「いまさら高木先生何？」という反応でした。「それといつも言われていた例の伯母さん、越智キヨさんですよ」と聞きました。これも当然でしょうという、お返事、驚きました。

あの心に残っていたその伯母さんと今私がいる本学が繋がっていたのでした。私にとってそれまでは過去の方々ですが、改めて出会ったという思いでした。孝先生がキリスト教学校での歩みを始める原

点となったのがこの越智キヨ先生だったのです。孝先生に大きな影響を与えたキリスト者の指導者がもう一人おられますが、触れる時間がありません。佐藤定吉という先生です。越智キヨ先生も親しかったということです。その〇さんは孝先生との年齢差から考えますと子ども時代は孝先生と会っていないでしょうが、越智キヨさんに関わる集まりや召天後の記念会で会っていた可能性は大きいのです。

改めて過去の方々とも、亡くなった方々とも出会い、つながることができるのだと教えられますし、多くの方々のお会いの中で、本学がこの地での歩みをなしてきたと強く思われます。出会いということ、そこからつながっていくということ、それがとても大切なことです。そのようなつながりの中で、本学も私たちも歩んでいるのです。そしてそのようなつながりの背後には、私たちを支え導く大きな御手があるということです。宗教は違っても龍子先生もそのような大きな御手を見上げて歩まれました。

様々な人間関係がバラバラになっていると言われる現代、そのような御手の見守りの中で、本物の出会い、それができるのだよと、それにより支えられるのだよ、本学の先達の方々、歩みが教えてくれています。

スリランカで起こされたテロリズムについて

志村 真 (本学非常勤講師)

4月21日のイースターの朝、スリランカで大規模な自爆テロリズムが起こされました。実行したのは「ナショナル・タウヒード・ジャマート (NTJ)」で、250人を超える犠牲者の中には、日本を含む少なくとも12カ国からの旅行者・居住者がいました。犠牲者には子どもたちが多くおり、卑劣な暴力だと断じなければなりません。

自爆攻撃の直後にスリランカのジョセフさんからSMSをいただき、すぐに電話して状況を知るに及びました。ジョセフさんは昨年10月に来日し、本学をも訪問くださり、何人かの教職員と交流された方です。

4月21日の現場のうち、3カ所がキリスト教会でした。カトリックの聖アンソニー教会(コロンボ)、聖セバスチャン教会(ネゴンボ)、プロテスタントのザイオン教会(東部バティカロア)です。聖アンソニー教会にはジョセフさんの甥が出席しており、聖書朗読を行っていたときに爆発が起きました。ご一家は助かったものの、多くの方々が犠牲となりました。バティカロアの犯人は当初カトリック教会を狙いましたが、礼拝が終わっていたので近隣のザイオン教会に行き、そこで爆発を

起こしたとのこと。同じく東部カルムナイでは26日、犯人たちの拠点で警察との銃撃戦があり、自爆によって多くの死傷者が出ました。

このカルムナイとバティカロアはジョセフご夫妻の出身地です。筆者や教会の人たち、そして本学の先生方の協力を得ながら、小規模の教育プロジェクトを長年行ってきた町です。私たちのプロジェクトは、スリランカのすべての民族・宗教に属する子どもたちが保護者の賛同を得て参加しています。こうしたテロを閉め出すためには、子どもときから「共に遊び、共に学ぶ」ことを通して、共に生きる経験を積むことが大切だと思います。これからも取り組んでいきたいと願っております。



本学教職員と共に撮った記念写真(2016年)

大学のカルト対策を考える

高木 総平 (宗教総主事)

24年前にオウム真理教が深刻な事件を起こしたことを契機として、カルトが問題視されるようになってきています。特に全国の大学では、キャンパス内外でかなりの数のカルト団体が活動し、学生に「被害」が出ています。本学の学生が入信、入会しているとの情報はありますが、駅頭で問題視されている仏教系の団体や家庭を訪ねてきたキリスト教系と言われる団体に勧誘されたとの申し出が4~5件寄せられており、いつ「被害者」が出てもおかしくありません。特にこの近く、名古屋でオウムの流れをくむアレフが活動していますし、京都でも活発だと言われています。残念ながらあの事件への反省もなく、変わらず教祖を崇拜していますし、正体を隠しての勧誘が問題視されています。

そのようなわけで、「被害」を出さないために、7月の宗教講演会はこの問題の第一人者の一人、村上 密牧師をお呼びしました。ぜひ皆さん、参加ください。そこで大学がなぜ取り組むべきかを述べたいと思います。私自身この4月から3回キリスト教主義の大学のチャペルに呼ばれ、この問題に特化して話をしてほしいとの要請に応じてきました。各大学とも憂慮しているということです。私が関わったいくつかの大学の例を紹介します。詳しくは申せませんが、新年度最初の当該学部の学生全員に、私のカルト予防の講義を数年間にわたり聞かせた大学がありました。また入学式に30分、このための講演に時間を割いた大学もありました。これらの大学は、学生の入信という「被害」が出たからです。キリスト教主義大学ですと(一部高校もあります)、チャペルでこの話をしてくださいという要請が時々ありました。これは今でも続いています。それからキリスト教主義大学の責任として、地域の大学に呼びかけて、情報交換や支援をしている大学がいくつかあります。いうまでもなく、カルト団体が主張する信教の自由の問題ではなく、人権や道義的な問題、時には犯罪や違法行為の問題だからです。入会、入信者は絶対的な権力をもった教祖やリーダーに全面服従させられ、思考能力や意思を奪われ、時には犯罪行為に従事させられ、人生を台無しにされ、この問題に詳しい友人によると、「人間性を毀損する」ということになります。また勧誘側になったり、あくどい金儲けの手先になったり、メンバーは被害者でもあり加害者でもあるということになります。私自身も悲惨な気の毒な例を目の当たりにしてきました。ただいろいろな団体があり、カルト度と言ったりしますが、程度は違うので正確

に見ていくことが求められます。

キャンパスはカルト団体の草刈り場だと言われました。大都会の大規模な大学では今もそうですが、街頭や店頭、バイト先で勧誘される場合があり、SNS利用も頻繁に見られますので、学生にはこのような具体的な勧誘法を伝えることが不可欠です。では大学にとってどう考えればよいのでしょうか。

こんな出来事がありました。裁判の例です。佐賀大学の准教授が統一協会(世界平和統一家庭連合)のメンバーである院生をやめさせようと思い、批判した例です。本人と大学がその院生と親(親もメンバー)から5年前民事裁判で訴えられた出来事です。結局損害賠償がほんの一部、50分の1程度認められ、高裁で確定しました。そこで注目すべきは、統一協会の他の裁判での違法性の認定を踏まえ、そのような組織から学生の生命、身体、精神、財産などを守るのは大学の責務だと判断されたことです。ですからその准教授の批判自体はすべきであったということが認められたものの、問題になったのは言葉の表現が行き過ぎたということです。ということは、大学は学生の安全を保障する義務を負っており、このカルト問題もその一つだということになります。

このような点から学生の皆さんには自身の安全を守るということで、気をつけていただきたいと思えます。特に日本や世界が滅びると主張したり、入信しないと不幸になる、地獄に落ちるなどと不安を煽ったり、褒めたり、あなただけが選ばれたとうれしくさせられたら要注意です。そうやって振り込め詐欺も同様ですが、判断力を奪います。冷静さを持ち続けることです。村上先生も述べていますが、どんなにいい人そうに見えても、しつこく問いただしてください。また強引なところはきっぱりと断ってください。またこの件で情報があったり、困った場合、学生課やキリスト教関係の教職員に相談してください。自分たちだけでの対応は難しいです。地方都市でも10くらいの団体が動いていることを覚えておいてください。

教職員の皆様は、学生さんと日々接してこのような団体の勧誘等の被害がないか、アンテナを張っておいてください。早期発見、早期予防です。入信、入会し、その後苦労の末脱会に至った元メンバーは、「知っていたら行かなかった」と必ず訴えます。このような「現実」も知っていただきたいと強く願います。

2019年度 宗教講演会

「笑顔の勧誘に警戒を」

日本アッセンブリーズ・オブ・ゴッド教団京都教会 牧師 村上 密 先生



日時：7月8日(月) 11:00~12:15

(第2時限の講義は行いません。)

会場：関キャンパス 11301 教室

＜奨励要旨＞

この度、中部学院大学でカルト問題について話をすることになりました村上密です。「笑顔の勧誘に警戒を」と題して、カルトの勧誘に注意を喚起したいと思います。

私は20才の時、数ヶ月の間、統一協会に入信していました。脱会以来、悩める家族の相談、異端・カルトに入信した人々の救出カウンセリングに長年取り組んできました。現在、統一協会問題、オウム真理教（現在 Aleph アレフ）問題、カルト問題、教会のカルト化問題に取り組んでいます。聖神中央教会事件から、そして神社仏閣の油まき事件で、私は宗教やカルト問題に詳しい人として新聞やTVで知られるようになりました。現在、アッセンブリー京都教会の牧師、宗教トラブル相談センターの代表を務めています。

カルトが大学生をターゲットにしていることを知っていますか。
なぜ、大学生を狙うのか。それは勧誘しやすいからです。
大学生は、まだ経済的、精神的に親から自立していないので不安定です。
不安定であると言うことが相手に付け込む隙を与えています。

カルトは笑顔で近づいてきます。
親しげに個人情報聞き出す人には気を付けましょう。
多く提供した場合はリスクを負っています。

もし、初めて会った人が何かに誘ったら、それが目的で接触してきたのです。
笑顔は相手のガードを低くし、誘うためのテクニックです。
サークルや団体に誘われたとします。大学に公認されていますか。
公認されていなければ、大学と知る知られる関係にないと言うことです。
知られていないことは警戒しなければならない状態です。

勧誘してきたサークルや団体が使用する施設は学内ですか、学外ですか。
どこから施設使用の費用が出ているかはっきりしなかったら、警戒しましょう。
話が進んで、仲良くなり、宗教団体と明かした時は疑いましょう。
実は です、と言う表現にも気を付けましょう。
正体を隠しての勧誘活動はカルトの危険性が高いです。